

## インドネシア メラピ火山噴火に伴う健康被害調査

活動期間：平成 22 年 11 月 11 日～18 日

インドネシア ジャワ島中部に位置するメラピ火山が 2010 年 10 月 26 日から 5 回の噴火があり 11 月 5 日には大規模な噴火を認め、死者が約 300 人、山頂から半径 約 20km 圏内に避難勧告が出されました。2010 年 11 月 12 日インドネシア保健局資料によると、ジョグジャカルタ地区 だけで約 840 か所の避難所に、136558 人が避難し、14529 人の受診者のうち 2194 人が呼吸器疾患とされていました。中部ジャワ地区ではさらに被害が強く、357677 人が避難していました。

このような現状をインドネシア プディオノ副大統領が視察し、日本とアメリカに火山専門家と医師（呼吸器内科医）の派遣を依頼したため、当センターから呼吸器内科専門医の派遣となりました。主な活動はジョグジャカルタ・中部ジャワ地区（マゲラン）を視察し、現状把握を行うとともに、今後の対策を提言することでした。



（メラピ火山：平成 22 年 11 月 13 日撮影）

現状：平成 22 年 11 月 4 日付の WHO の報告によると、急性呼吸器疾患：26%・下痢：11%・高血圧：10%・筋骨格系の問題：9%とされていました。実際に急性呼吸器疾患の割合は多いものの、各診療所とも重篤な患者は少なく、軽度の咳・喉の痛みを訴える患者が多数を占めました。また、各避難所とも医師・薬・マスクなどは充足しているようでした。



(マゲラン市内の様子：車中より撮影)



(避難所の様子 1)



(避難所の様子 2)



(避難所の様子 3)



(マスクを外そうとする子どもたち)

提言：派遣時、すでに避難所生活が約 2 週間となっており、長期化すると精神的な問題が出てくる可能性があり、災害局もジャカルタよりメンタルケアチームの派遣を考慮していました。しかしながら、火山灰の粉塵が様々な場所に残っているのにも関わらず、マスクを着用している人は少なく、長期的な粉塵吸入を避けるためにも、マスク着用の重要性について啓発する必要があることを現地の保健局・災害局などに提言しました。

